

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: [shakaitsushin@nifty.com](mailto:shakaitsushin@nifty.com)

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

くもくく

■巻頭言■

福島第二原発の廃炉について

原野人：2

◇澤井正子さん講演から◇

どうする？危険な原発のゴミ さよなら原発！新得会：3

―日本そしてフィンランド―

搾取と収奪めぐり 編集部：5

―森勉さんと中澤秀行さんの対話(一)―

資本主義社会では労働者と資本の利害は相反している 森勉：5

―小島恒久著『経済学入門』紹介―

「搾取」と「収奪」そして国家 中澤秀行：7

「なつぞら」、松浦武四郎、アイヌ民族 佐野周二：10

―NHK連続テレビ小説「なつぞら」裏話2―

読者からのおたより …………… 13

編集部より …………… 14

# 旬刊 社会通信

NO.1294 二〇一九年八月一五日号

二〇一九年八月一五日発行  
(毎月一日・一五日二回発行)

## 福島第一原発の廃炉について

東電は福島第二原発4基の廃炉を今さらながらようやく決定した。東電によると、この廃炉関連費用は総額で4千億円超に上るとする。全4基の廃炉には40年超の期間がかかる見通しという。これには二つの大きな問題がある。

**廃炉計画の実態は** まず原子炉本体や格納容器や建屋を解体・分解する必要があるのかという問題である。核燃料を別扱いするのは当然として、それを取り出した後の原子炉等を解体する必要性は乏しい。予想より増えて建設費に近いほどの高い費用をかけて解体しても、安全に再利用できるものはさほどない。日立や東芝や三菱などの独占資本にとつては、建設時に近い儲け仕事になるかもしれないが、庶民には負担が増すばかりである。

東電によれば廃炉で出ると見積もられる放射性廃棄物は「5万トン超」とされる。その中でも汚染の程度が低いものは再利用するとされるが、大半は再利用できず、埋設などの処分が必要なものとなる。むしろ放射能を含んでしまった鋼鉄等々を外に分散させる危険性の方が問題となる。

従って、これらは解体することなく、そのまま墓標にするべきであろう。

**使用済み核燃料の行方** もっと重大なのは4基の使用済み核燃料プールに保管する「1万76体」の核燃料をどうするかだ。小早川社長は核燃料を金属容器に入れて空冷する「乾式貯蔵」施設を造り、「廃炉完了までに県外にすべて搬出する」と内堀福島県知事に説明した。いずれすべて県外に搬出するなどといっても、受け入れそうなところはどこにもない。

高速増殖炉『もんじゅ』はとくに破綻し、廃炉とされている。そのため使用済み核燃料からプルトニウムを抽出する再処理の意味はすっかり消えさせている。青森県六ヶ所村に造った再処理工場は幸か不幸か随所に問題を抱えていて、遅れに遅れ稼働もできない。すでに14兆円を浪費した。

地震、火山、地下水を見るだけでも、日本には使用済み核燃料（高レベル放射性廃棄物）を10万年以上にわたって安全に地下埋設処分できるところなど、どこにもない。青森県に持ち出すことはできないとなると、原発敷地内で永久的に管理保管するしかない。プールから引き揚げて、金属容器に納め空冷の「乾式貯蔵」に移行するとして、そのまま何万年も放置することはできない。屋内の条件をどのようにしても、燃料被覆管も金属容器も腐蝕が進行するからである。いずれ金属容器はより大きな新しい金属容器に納めねばならなくなるであろう。大事故の起きなかつた原発でも、このような問題を抱えている。

**第一原発の後処理について** メルトダウンを起こした第一原発の後処理ははるかに難題である。格納容器にも建屋にも地下にも放射能は高レベルに拡散している。デブリは金属やコンクリートなどと溶け合って固化している。これをどのようなロボットを使った遠隔操作であれ全部切り出すことなど、多大な被曝と外部への拡散なくしては不可能である。地下水の侵入を遮蔽し、このまま閉じ込めながら管理する方がはるかにベターである。

第一原発の事故はすでに、敷地内のタンクには100万トンを超える高濃度汚染水

を生み出す一方で、敷地周りの「中間貯蔵施設」には膨大な量の除染で発生した汚染土が搬入されている。しかしこれが本当に30年以内に県外に搬出される「中間貯蔵」になると信じる県民はいない。汚染土の放射能レベルが多少減っても、再利用を受け入れる県民もいない。国と東電は責任をもって最終的な保管場所を造る以外にない。

年間20ミリシーベルト(通常の20倍)の被曝が許容されるとして、避難した人々を無理やり帰還させ、補償を打ち切るなどはいよいよ許されることではない。いかに除染されたからといって、原発敷地にメルトダウンした核燃料や使用済み核燃料や汚染水を抱え、周辺には汚染土を保管する場所に近い地域に、それらを専門に管理する職員を例外として、一般人を居住させるべきではない。管理職員も家族との居住地は十分な距離をとった方がよい。

避難者がどこに住むかは本人の意思を尊重し、住居や職などは長期的に国と東電が保障するべきである。

**柏崎刈羽原発はどうなる** 目先の利潤の追求に忙しい東電は、柏崎刈羽原発の再稼働をもくろむ。しかし未曾有の重大事故を起こした東電に、原発を稼働させる資格があるのだろうか。

福島第一原発の廃炉費用は8兆円、被災者賠償に8兆円、除染等に6兆円、第二原発の廃炉費用に4千億円と試算されている。東電はこれらの費用を柏崎刈羽原発の再稼働で確保したいとする。

しかしこの再稼働のためには安全対策費が、東電の試算で約1兆1700億円となることが分かった。従来約6千800億円から2倍近くに増えた。テロ対策施設(特定重大事故等対処施設)など、新規基準への対応費用が大きく増えたことによる。

もっとも重大な問題がある。柏崎刈羽原発はすでに何度もの大地震を受けている。これによって、重要な配管や機器、原子炉と配管の接合部や配管の曲部などに脆化が生まれている。何万箇所もある重要な配管の溶接部の周辺には劣化が進行している。

稼働させる場合、次の一撃で重大事故が生まれる確率は高くなっている。この大型炉で冷却材喪失事故が生じかねない。そのような悲劇を起こすことは断じて許されない。福島第二に引き続き、柏崎刈羽原発もすべてを廃炉にするしかない。(原野人)

◇元原子力資料情報室スタッフ 澤井正子さんの講演から◇

どうする？ 危険な原発のゴミ

日本そしてフィンランド

元原子力資料情報室スタッフの澤井正子さんを招いた『どうする？ 危険な核のゴミ』をテーマにした講演会が6月9日、北海道新得町公民館で開かれ約40人が参加した。主催・実行委員会、後援・さよなら原発！新得会。

宇井ひろしさん(有機農業経営)のアコースティックによる「青虫の歌」などでオープニング。主催者の広山輝男代表は「原子力廃炉処分は技術含め未知の情勢にある。原発廃棄や再稼働拒否の運動に関わりを持つ」とあいさつした。石川かおり衆議院議員(道11区・十勝)、池本柳次道議会議員、小泉まさし道議会議員、紙智子参議院議員、はたやま和也前衆議院議員・参院道選挙区予定候補からのメッセージを披露。

講師の澤井さんは、1992年から原子力資料情報室スタッフとなり再処理・廃棄問題を担当。チェルノブイリ原発事故を契機とした「反原発出前のお店」の活動に参

加。六ヶ所村や再処理工場が建設中止になったドイツのパツカーズドルフ、ゴアレーベンを訪れている。

### 日本に最終処分場施設の適地はない

澤井さんは、原発から出る高レベル放射性廃棄物（原発のゴミ）の危険性を説明し、再処理・最終処分問題について、使用済み核燃料の最終処分場を決めたフィンランドや脱原発を決めたドイツの事例を紹介。どの国でも、決して順調に処分場を決定しているわけではなく、フィンランドの処分場を誘致した自治体でも、3分の1の議員は反対したそうだ。

日本では最終処分場の候補地選定を担う原子力発電環境整備機構（NUMO）が、火山活動や地殻変動の影響が及びにくいとして根釧海岸地域などを適地としたことを「とても科学的とは言えない。地震や火山の活動が活発な日本で最終処分施設の適地などない」と批判し、その上で「原発のゴミの影響は何十年も続く話。将来世代のために、原発のゴミの危険性について、継続的に勉強しよう」と強調した。NUMOが、説明会に学生にお金を払って参加させるなど、処分場選定をめぐる手続き、情報公開の手法が、公正性・透明性確保にはほど遠い状況であることも指摘した。

欧州各国の原発や再処理・最終処分の現状を説明して、日本の原発は「地震地帯にあり大きな不安がある」と指摘。使用済み核燃料については、最終処分方法について、科学的に未解決問題が多いにも関わらず、処分場費用を電気料金に上乗せしていると批判し、「国民の理解を前提としていない、現在の国や電力会社の原子力政策を変えていこう」と述べた。

《澤井さんの話から》 〈道内講演（6・8札幌、6・9新得、6・10釧路）テーマ「待ったなし！ どうする？ 危険な核のゴミ 再処理・最終処分」について〉 「核のゴミ」とか「電気のゴミ」と言うのは推進側の問題のごまかし、すり替えになっている。「原発のゴミ」とはつきり言うべき。「待ったなし」と市民の方が「早く処分場建設を」みたいな考えに拘らなくて良いのではないか。

なぜか？ 誰のゴミかという事。国民が原発やってほしいと言って原発のゴミが生まれたわけでない。廃棄物だから発生者責任がある。誰が捨てたいのか？ 国や電力会社は原発推進の責任を、受益者負担といって電気を使っている国民におしつけようとしている。原発でなくても電気は作れる。まず発生者責任があり、そこを明確にしないと、議論は先に進めない。

### フィンランド

処分場を決めたフィンランドの歴史、知らなかったことがたくさんあった。第2次世界大戦の時、隣国のスエーデンは永世中立の立場。フィンランドは、当時のスターリンのソビエト連邦側につくのか、ヒットラーのドイツにつくのか、究極の選択を迫られ、ドイツを取った日本と同じ敗戦国。

そして日本と同様、化石燃料資源は乏しい。古くからスエーデンや帝政ロシアに占領された歴史があり、政治的、エネルギー的に自立を模索してきた。ロシアからは石油でも石炭でも天然ガスでも供給を受け入れることは可能だが、原子力発電での自立を目指してきた。稼働中の原発は4基で、稼働率は約90%以上、世界一。国民の自国の原子力発電への信頼度は相当高い状況である。

高レベル放射性廃棄物処分場の建設は、早い段階から始まっていた。チェルノブイ

り原発事故の前から処分サイト選定手続きが、国会で決定されて始まった。処分場を造ることが国民の生活に必要なものと国会が認めたから。全国から102ヶ所の候補地を選んだ後に、86年にチェルノブイリ原発事故が起こり、大きな反対運動が各地で起こり、最初の目論見が潰れた。

そこで政府は原子力法を改正して、自治体の文書による調査同意が必要とし、5カ所が選ばれた。結果的には現在原発（オルキオルト原発）立地している所が選ばれている。地元の原発企業で働いている方が3分の1とか、原発・核に理解があったという事と思われるが、地元自治体（ユーラヨキ）首長は、「お金です（原子力施設への優遇税制を認められる）」とハッキリ明言した。

## オンカロ

フィンランドの高レベル放射性廃棄物の最終処分場はオンカロといい、ほろ穴という意味です。オルキオルト原発の敷地に隣接している。元首相の小泉さんがその処分場を見て原発になったと言われている。2015年11月には政府の許可が正式に下りて最終処分地の建設が始まった。フィンランドは再処理を行っていないので、オンカロでの処分は、使用済燃料約6500トン、いわゆる直接処分する予定です。日本でNMOが募集している処分場は、約3万2000トン分の処分場の用地です。実施には、それと同じくらい（約3万トン）分の処分場は、どうするかも決まっていない。

最終処分場のオンカロの敷地は、約19億年前の地層に設置される予定だ。もっと古い約23億年前の地層もあるが、アクセスが難しいようだ。このように（最終処分場の）地層と関係するが、フィンランドがあるスカンジナビア半島、この辺は岩だらけの地域で、ノーベル賞が出来た意味がよく分かりました。ダイナマイトがなかったら住むところもつくれない、道路もつくれない、建物もつくれない場所なのです。ノーベルがダイナマイトを発明し社会に貢献したが、一方で武器にもなってしまった。ノーベルの遺産でノーベル賞が設立されたのです。

このような場所なので、オンカロにとって科学的に大きな問題と考えられているのは、次の氷河期（今は間氷期）に約3000メートルの厚さで氷の塊が陸地になり、その重さで土地が沈下することによって、オンカロがどのような影響を受けるか、ということだと科学者の説明を受けた。

NMOや経済産業省は、ただ最終処分場が建設されている事実だけを宣伝しますが、フィンランドの歴史や地理的な状況を知らずに受けたいへん危険です。オンカロでは、一番最近の地震は、40年前にマグニチュード4.5の地震が33キロメートル離れた場所起きたという。私たちは、マグニチュード9.0を8年前に経験したが、それは国の機関によって確率20%と評価されていました。このような場所は日本中にあるということを、皆さんご存じだと思います。

（2019年7月15日 さよなら原発！ 新得会 事務局長 佐野 周二）

## 搾取と収奪めぐり

### ―森勉さんと中澤秀行さんの対話（二）―

編集子は月5回、学習会に参加します。30年を超えるものもありますが、平均10年前後、最近、学習会にハズミがついてきました。学習会仲間いわく「大きな学習会に

呼ばれました。がんばってやってきました」。その翌日、「みなさんに喜んでもらえました。今後もお付き合いをと、さらに学習を重ねていくことになりました。」と。

編集子にも嬉しく楽しく元気で話がありました。「有志の勉強会でお礼はなにもできません。おつき合いいただけますか」と。私「うれしい、つき合いますよ。手弁当で」と。学習会を2、3年続けていると、思わぬ発見がしばしばです。

勉強してきたことを一生懸命報告する人、これはすぐわかります。でも少し時間が掛かるのは、いろんなことに関心をもち、本読んで、たくさんの知識をもっているのに、黙し聞き役に回っていらつしやる人です。しかし、ちよつとしたことで、彼はいろんなことに興味を持つてるな、本読んでいるな、知識深いのがわかるんです。そういう人物を発見できれば楽しくなりますね。彼に問いかけ話してもらえば、学習会はさらに楽しく、参加者の「競争」は学習会の内容をさらに深くしてくれます。こんな例が10年以上参加している国労上野反合研の学習でもありました。

反合研の森勉さんの報告を読んだ長野の中澤秀行さんとの交流です。小島恒久著『経済学入門』（労大新書）発刊は1963年、100刷を超える古典です。『経済学入門』の学習会を終えて」（『通信』No.1291、2019年7月1日）に報告があります。もっとおもしろい話があるんです。その話から長野県松本市の中澤さんと国労上野反合研の森さんの交流が始まったのです。

## 資本主義社会では労働者と資本の利害は相反している

― 小島恒久著 『経済学入門』 紹介 ―

資本主義社会では、労働者と資本の利害は相反している。簡単に内容を紹介しよう。

「第1章 経済の見方 考え方」では、人間社会の存続にとって労働することの大切さ、人間労働の特徴である目的・道具、生産手段と労働力の結びつきによって作られる生産力、生産にあたって結ばれる人と人との関係（＝生産関係）は社会によって異なり、絶えず発展する生産力とやがて窮屈になる生産関係の矛盾により、古い生産関係が打ち破られて新しい生産関係に変わるといふ「唯物史観」の概略が示される。資本主義社会の生産関係は、生産手段を独占する少数の資本家階級が、生産労働を担う圧倒的多数の労働者階級を搾取するというものであるが、それは労働者階級の階級闘争によりやがて打ち破られ、搾取・階級のない社会主義社会へと変革される（人間社会の発展の法則）。

「第2章 価値と貨幣と価格の話」からは、資本主義社会の仕組みが分析される。資本主義は商品生産の社会であり、その目的は金儲けであり社会のためになるかどうかは二の次だ。生産手段の所有者と実際の生産者が分かれ、生産手段を持たない労働者は労働力を商品として資本家に売るしかない。こうして労働者は資本に雇われ、資本家の指揮の下、労働する。

「第3章 資本家のもうけ（剰余価値）はどこから生まれるか」では、そうした生産の場において、生産手段はその価値を生産物に移すだけであって新たな価値を生まず、労働者の労働だけが「労働力の価値」以上の価値＝剰余価値を創り出すこと、すなわち搾取の秘密とともに、労働者と資本の利害が相反していることが明らかにされる。

「第4章 搾取を強化する方法」は、資本がタダ取りするこの剰余価値を、資

本がいかに殖やそうとして頭を廻らせるかという話である。生産規模の拡大、労働時間の延長、労働密度の増大、さらに最近声高に叫ばれる「生産性の増大」、賃金の切り下げなど、資本は何でもやる。

「長時間労働の撲滅」「働き方改革」と言いながら、仕事量も要員も変えない場合は、労働密度の増大（一人で何でもやる）になるしかない。というのは、全体の業務量÷1時間当たり一人の業務量×労働時間×要員数だからだ。注意すべきは、JRによる業務の切り捨てである。「業務量が減った」と言っても実際には減っていない場合は労働強化になるしかない。みどりの窓口の営業時間短縮や廃止も、他のみどりの窓口の長蛇の列をさらに長くしているだけに過ぎない。

### 生産性向上の成果は、すべて資本のふところに入る

こうして、「生産性向上」によってもたらされる甘い果実はあげて資本の懐に入っていく、労働者が利益を得ることはない。労働者が団結して闘った場合のみ、生産性向上の果実をささやかながら奪い返せるにすぎない”（P92〜93要約）ということになる。この第3章と第4章は、繰り返して学習し議論することにより、今の社会と自分の働く会社を見る目を肥やしていきたい部分だ。でないと、「生産性向上は悪くない」という迷路に迷い込んでしまうからだ。以下に実例を示そう（傍線は、国労上野反合研編集部）。

「組合は会社とケンカする組織ではありません。・・・会社と組合は目的が違います。一言で言って、『生産性で協力。分配で対立』です。・・・組合は組合員の為のものです。組合の為にも存在し、・・・多くの皆さんが、組合に加入し・・・ただける事が、組合の将来にとって、会社の将来にとっても重要な事なのです。」この文章は恥ずかしながら、我が「国労東京」（2019年4月5日 No.1829）に掲載されたトップ記事「組合に入ろう！」の一部である。「生産性で協力」も問題だが、組合加入を勧めるのに、どうして「会社の為にもなる」と、くどくど言わなくてはならないのかも疑問である。

### 収奪と搾取

以下、「第5章 賃金のはなし」：「第9章 帝国主義のはなし」と続くが、内容の紹介は大胆に割愛する。学習会では、「若い頃、社会主義国へ行って幻滅した」という話も出された。社会主義は人類初の経験であり、旅行者と生活者の見る目の違い、当時の生産力の低さや日本との文化の違い（衛生観念、接客対応など）など加味しなければならぬ点はあるが、その後世界的に大きく問題になり人類として経験も積んだ、人権や民主主義、地球環境や原発問題などを踏まえた、より人間的な社会主義が模索されていくのだろうと思う。なお、『経済学入門』旧版で「収奪」と「搾取」が書き分けられていたところが、新版ではすべて「搾取」に変えられている点も議論になった。

収奪と搾取が書き分けられていたのが、すべて「搾取」に変えられていることについてです。この一文を目にした松本の中澤さんは、反合研の仲間に、左記のような一文（『搾取』と『収奪』について）を寄せられました。

### 「搾取」と「収奪」について

『経済学入門』の「搾取」と「収奪」に注意を払って学習されたとのこと、さすがと思いました。そんな訳で、以下は、搾取と収奪について等の雑談であります。

**言葉と概念** 大内兵衛先生は「いかなる専門でも、教科書の第一ページは定義であるしかない。」(榎田民蔵著・大内兵衛補修『共産党宣言の研究』、1970年 青木書店刊、232頁)と言われます。また、マルクスはブルードンを批判するのにゲーテの言葉を引用して、「言葉の概念」の重要性について語っています。それは、「まさに概念の欠けているところに、言葉がうまく間に合うようにやってくるものなのだ」(『資本論』岩波文庫版、第一分冊、125頁)というものです。

「搾取」と「収奪」とは全く違った概念です。労働大学松本講座でも『経済学入門』を使って、6回で一冊を終了するいわゆる「経済学コース」を、1978年〜十年以上も続けてやりました。しかし、労大講師陣(中には大学の教授もいました)のなかにも、「搾取」と「収奪」の違いについて、きちんとした説明のあった人は多くはなかったように記憶しています。当時の『経済学入門』にも、ああした記述があったことも影響しているのかもしれませんが。

**『資本論』** 『資本論』には、次のような記述があります。

「いまや収奪されるべきものは、もはや自営的な労働者ではなく、多くの労働者を搾取しつつある資本家である。」(『資本論』岩波文庫版、第三分冊、414頁)と。そして続けて、「この収奪は、資本主義的生産自体の内在的法則の作用によって、資本の集中によって、実現される。つねに一人の資本家が多くの資本家を滅ぼす。この集中とやらんで、すなわち少数の資本家による多数の資本家の収奪とやらんで、ますます大規模となる労働過程の協業的形態、科学の意識的技術的応用、土地の計画的利用、共同的にのみ使用されうる労働手段への労働手段の転化、結合された社会的労働の生産手段として使用されることによるあらゆる生産手段の節約、世界市場網への世界各国の組入れ、およびそれとともに資本主義体制の国際的性格が、発展する。この転形過程のあらゆる利益を横領し独占する大資本家の数の不断の減少とともに、窮乏、抑圧、隷従、墮落、搾取の度が増大するのであるが、また、たえず膨張しつつ資本主義的生産過程そのものの機構によって訓練され組織される労働者階級の反抗も、増大する。資本独占は、それとともに、かつそれのもとで開花した生産様式の極端となる。生産手段の集中と労働の社会化とは、それらの資本主義的外被とは調和しえなくなる一点に到達する。外被は爆破される。資本主義的私有の最期を告げる鐘が鳴る。収奪者が収奪される。」(『資本論』岩波文庫版、第三分冊、414〜415頁)という訳です。

こうしたことは、今も我々の目の前で日々進行している事実そのままでもあります。ここで明らかかなように、「搾取」と「収奪」は違った概念、そうした言葉として、マルクスは使っています。

**搾取と収奪** 「搾取」は、他人の労働の一部を、あるいは全部を取ることです。これは生産手段を所有している資本家が行う行為です。これに対して「収奪」とは、資本までも取るのとして、資本家同志の奪い合いにもなります。そして、収奪者である資本家を収奪するのが、労働者階級なのです。これこそ、社会主義革命によって労働者階級の行うべき任務であり、共産主義に移行するまでのその間は、プロレタリアート独裁、すなわちプロレタリアデモクラシーが必要となります。

こうしたマルクスの考えを、ベルンシュタインは勿論、『資本論』第四巻にあたる『剰余価値学説史』を託されたカウツキーさえも、理解できませんでした。「プロ独」



という言葉は使われていませんが、『共産党宣言』には「プロ独」の思想が貫かれているのです。

そんな訳ですから、村山富市氏にあつては当然なのでしょうね。『村山富市回顧録』には、社会主義協会に対してどのように考えていたのかが、次のように記されています。「僕はああいふ教条主義はいかんと思つていた。だから協会派の立場に立つたとはなかった。協会派はマルクスレーニン主義とかプロレタリアト独裁を掲げていたが、僕はプロ独裁なんていうのは反対だった。そもそも「独裁」という言葉が嫌いじゃ。やはり民主主義じゃ。」(岩波現代文庫版、57頁)と。

**民主主義と階級性** 現在の民主主義、すなわち市民社会(その経済体制は、資本主義的生産様式の支配的な社会)の民主主義は、ブルジョア民主主義であり、ブルジョアジーによる独裁政治体制であるということ、このことが村山富市氏はまったく理解できていないのです。それは、そもそも「国家とは何か」についての無知に由来していると思います。

人間社会には、国家のなかった時代が長く続きました。国家の誕生は、階級の発生、階級社会の誕生と共にあり、「それは通例、もつとも有力な、経済的に支配する階級の国家」(『家族・私有財産・国家の起源』岩波文庫版、227頁)であつたし、今もそうであるということです。階級のなかった原始共産制社会、階級社会としての奴隷制社会、封建制社会、資本制(資本主義)社会、その後に来る社会制(社会主義)社会、そしてその発展としての共産制(共産主義)社会、これらは、『経済学入門』の第一章にある「五つの社会」の節以降で述べられている通りですが、資本主義社会の次に来る社会のことを、マルクスは既に『共産党宣言』では「一つの協力体」(岩波文庫版、76頁)と呼び、いわゆる「国家」とは区別しています。『宣言』以前の著作である『哲学の貧困』でも、この「一つの協力体」は「一つの結合体」(新潮社版選集第三巻、134頁)という言葉が使われ、「国家」とは区別して扱われています。

ところで、『共産党宣言』が刊行された1848年には、原始共産制社会の存在は知られていませんでした。しかし『共産党宣言』の1888年英語版へのエンゲルスの「註」、1890年ドイツ語版へのエンゲルスの「註」を勉強することより、十分に補えます。「モルガンの称賛すべき発見」すなわち『古代社会』、そしてエンゲルスの『家族・私有財産・国家の起源』(『共産党宣言』岩波文庫版、40(41頁))のことが紹介されていますが、これらの文献の勉強が求められます。

**五つの社会と奴隷制** 前述のこれらの版への「註」には、マウラーも登場しますが、エンゲルスは1890年8月5日付のコンラート・シュミットへの手紙のなかで、「党に結びついている若い著述家たちのうち、経済史、商業史、工業史、農業史、社会形態史の研究に努力する人びとがどんなに少ないかに自分で気がつかれたにちがひありません。どれだけの人がマウラーについて名前以上のことを知っているでしょうか？」(新潮社選集第四巻、23頁)と訴えています。私達は、岩波文庫版で入手可能な『古代社会』や『家族・私有財産・国家の起源』くらいは、せめて勉強すべきです。『家族・私有財産・国家の起源』は、マルクスの残した『古代社会』ノートにエンゲルスが生命を吹き込み、加えてエンゲルスの独自の研究を加えた作品で、必読の文献だと思います。私は学生時代、家族法のゼミナールでこの本と出会いました。これを読むと、ブルジョア憲法である日本国憲法に第9条が存在するというところに、「違

和感」を感じるはずだと思えます。何故なら、階級社会である日本国の基本法に、第9条が存在することは正しく矛盾であるからです。『起源』を読み、「国家とは何か」を考察すれば、理解ができません。しかしながら、そうした論調の「九条護憲」の論文は、残念ながら目にした記憶は皆無です。この話ができればと思っています。：。

ちなみに、「五つの社会」に関連して、日本における「奴隷制社会」をどのように考えるかというについての、大きな問題もあります。このことについての向坂逸郎先生の見解も、実はほとんど知られていないように思われます。：。『経済学入門』の第一章「経済の見方 考え方」だけでも、深く学ぶとしたら、それこそ大変なことだと思います。

今年、フランス大革命から丁度230年であります。『共産党宣言』にもフランス大革命についての記述があります。そのスローガンであった「自由、平等、友愛」、そしてそれらが結晶した「人権宣言」、こうしたものの中身は一体全体何であったのか？ 何であるのか？ マルクス・エンゲルスの著作を読むと、こうした疑問にも答えを提供してくれます。「賃労働と資本」という生産関係は、搾取する自由のある社会です。搾取の存在する社会である限り、平等はあり得ませんし、友愛についても同様です。『資本論』は、平等思想の歴史性を証明するという一面も有していると思います。

岩波文庫版の『人権宣言集』には、「マグナ・カルタ」以後の「人権宣言」が多数収録されていますが、残念ながら人権宣言の金字塔である『共産党宣言』は収録されていません。：。学にかかず！ であります。

季節の変わり目、ご自愛ください。

(2019・6・13 中澤 秀行)

## 「なつぞら」、松浦武四郎、アイヌ民族

### — NHK連続テレビ小説「なつぞら」裏話2 —

#### ロケ地

NHK連続テレビ小説「なつぞら」の主要ロケ地となった北海道十勝の新得町内で、昨年6月から今年7月4日まで計18日間、撮影が行われた。ヒロイン・奥原なつ（広瀬すず）が育った「柴田牧場への道」と名付けられ、牧場の看板、牧柵、「オダッシュ橋」が残っているロケ地の一般公開が7月25日から始まった。

朝から山形県、愛知県、東京都、神奈川県などから多くのファンが次々と訪れた。登山で有名なオダッシュ山や臥牛山（がぎゅうやま）残雪の白黒文様、牛が臥して見える）を望む起伏ある景観や柴田牧場の看板を背景に記念写真を取っていた。

現地は道立総合研究機構畜産試験場の近くで案内看板がある。8月上旬からは、新得町内で「柴田牧場」の玄関前建物、新牛舎のセットが公開される。

「なつぞら」は、1956（昭和31）年春、奥原なつ（広瀬すず）は雪残る北海道を旅立ち、アニメーターの夢を抱いて上京。漫画映画製作会社の試験を受け不合格と合格、1957（昭和32）年春に長編漫画映画「白蛇姫」を完成。なつと咲太郎（岡田将生）は、12年前に生き別れた妹・千遥（清原果那）を訪ねたり、「わんぱく牛若丸」の検討会、演劇へ意思固い雪次郎（山田裕貴）、千遥に動揺するなつ、北海道から上京した夕見子（福地桃子）、懸命に生きてきた千遥、テレビ漫画「百獣の王子」放送など、恋の季節も入れ混じってドラマは進んでいる。

これまでの撮影に協力した自治体は、北海道十勝の新得町、陸別町を軸にして、帯広市、清水町、中札内村、池田町、士幌町、茨城県大子町、つくばみらい市、千葉県市原市、神奈川県愛川町、静岡県函南町がテレビで紹介されている。(7月26日現在)

▽コメント 東京の「なつぞら」ファンから『新宿カリー』の『川村屋』(実在の『中村屋』『角筈屋書店』(実在の『紀ノ国屋書店』)の社長・茂木一貞(リリー・フランキー)が出てきて目が離せない。「新宿に住み新宿の街をつくった人々がどのような描かれるか、ますます面白くなりそう。」と裏話のための資料が寄せられた。

## 「中村屋」

ドラマのなかで、帯広の「雪月」(実在の『柳月』)店主・小畑雪之助(安田顕)は、「先代マダムがインド人革命家を助けたことから、この『新宿カリー』は生まれた」「命懸けで守ったマダムのカリーだ。革命が生み出した川村屋の味だ。名物となるものは、その店の：：その人間の覚悟だ」「その先代の遺志をしっかりと引き継いでいるのがマダム・前島光子(比嘉愛未)だ」と絶賛し語っていた。(第44回5・21)

▽コメント 『中村屋サロン美術館』によれば創業者の相馬愛蔵・黒光夫妻は、1901(明治34)年、本郷でパン屋「中村屋」を創業。1909(明治42)年、新宿に本店を移転。相馬夫妻は芸術に深い造詣を有していたことから、中村屋には多くの芸術家、文化、演劇人が出入りするようになった。それが『中村屋サロン』のはじまり。：：中村屋サロンの中心人物は彫刻家の荻原守衛(碌山)。會津八一、：：インド独立運動の志士ラス・ビハリ・ボースなど、多彩な人々が中村屋と関わりを持つ。」

## 開拓者たち

十勝の明治期を代表する開拓者に依田勉三、二宮尊親、関寛齋がいる。最初に入植した晩成社のリーダー依田勉三について、十勝の開拓史の中でもっとも著名で語り継がれている。帯広市内にある六花亭製菓の銘菓「マルセイバターサンド」や「一つ鍋」は、晩成社が製造した「マルセイバター」と依田勉三が詠んだ「開墾の初めは豚と一つ鍋」に由来する。(十勝晩成社解散記念誌『依田勉三・晩成社の研究』平成28年6月)

世界最高峰のナチュラルチーズ製造で有名な共働学舎新得農場の宮嶋望代表は、様々な障がいのある人たちと共同生活をして「自労自活」で暮らしている。

宮嶋さんは「彼らと一緒に仕事をして、自分たちの生活をサポートできるだけの経済を回せたら一緒に生活できるわけです。それを、ちょっとチャレンジしてやろうと思いました。」

開拓団のリーダー依田勉三さん(静岡県松崎町出身)について、「やっぱりチャレンジ精神があったから(できた)と思いますね」「これでどうだろうかと本筋を見つけていくことを勉三さんもやっていたんでないか」(2018・7・13 NHKTVシリーズ 北海道150年―開拓―敗れざる志 挑戦者たちの十勝)

## 松浦武四郎とアイヌ民族

幕末の探検家・松浦武四郎(三重県松阪市出身)の半生を描いた『北海道150年記念ドラマ・永遠のニシバ』北海道と名付けた男 松浦武四郎がNHKTVで7月15日全国放送された。武四郎役を人気アイドルグループ嵐の松本潤さんが演じた。

北海道という地名がなかった150年以上前、アイヌ民族の土地だったことがわかるドラマで、6回の蝦夷(えぞ)地調査や松前藩によるアイヌ民族への酷使を改めよ

うと奮闘する武四郎、蝦夷地の地形や地名を克明に記録した探求心、アイヌ民族の儀礼や踊りなどを描いている。冒頭の雪原を歩くシーンは隣の鹿追町で撮影された。

5月24日に施行された「アイヌ施策推進法」は、アイヌ民族を先住民族と位置づけ差別を禁止した。同法はアイヌ民族の誇りを尊重し、共生社会を目指すことを目的とし、差別を禁止する基本理念を明記。アイヌ文化継承や観光振興などにつながる地域計画を策定した市町村への交付金制度を創設する。

## アイヌ新法

このアイヌ新法をめぐって、中曽根康弘首相の「日本単一民族国家」発言（1986（昭和61）年 衆議院本会議）があり、最近では、戦争による北方領土の奪回に言及し日本維新の会を除名された丸山穂高衆議院議員は、「アイヌ（新法）なんて本当に国家100年の大計を誤るものだ」（2019年4月衆院厚労委の質問で）と発言している。

このアイヌ新法をめぐって、釧路市長・参議院議員を担った山口哲夫氏（新社会党結党時の中央本部書記長）は、アイヌ新法成立に大きな貢献をしている。

北海道ウタリ協会発行『アイヌ史』（1994年）の第120回参議院内閣委員会議事録には、次のように記載されている。

《山口哲夫君 平成3年（1991年佐野挿入）4月9日 それでは、アイヌ民族の問題、今政府の方として検討委員会までつくってやっているんで、入口の最初の問題だと思っんです。それを政府の方として明らかにしないでアイヌ問題を論議しようといつても無理なので、…世界的に代表的な定義というのがあるんです。…世界先住民族会議が出したものです。これは、先住民とは次の民族を言う。すなわちAとして、ある地域に植民地国家が形成される、または既存の国家が統治権を及ぼす以前から居住しており、かつ、Bとして、当該地域にその後も民族として継続しており、云々と書いておる。これからいきますと、既存の国家、日本ですね、日本政府が統治権を及ぼす以前からアイヌというものは北海道とか千島に居住しておったわけです。この世界的な代表的な定義からいけば、当然アイヌというものも先住民であるというように解釈できると思っんですけれども、どうでしょうか。

○説明員（小西正樹君） 先生が御指摘になりました世界先住民の会議については、詳細を私承知しておりませんので、どういうコンテキストで、どういう文脈そういう定義が行われたかということについて検討した上でないと、今先生が御指摘の点についてはお答えできないと思っんです。

○政府委員（公文宏君） 先住民族というものの定義については、私どもとしては内外において明確な定義があるというふうに承知しておりません。ですから、これから先住民族という概念について検討していかなければいけないことだと思っんですけれども、ただアイヌの人たちが北海道にいわゆる和人より先に古くから住んでいたということは文献等から通説になっておりまして、その点は承知しておることには言えると思っんです。

○山口哲夫君 ということは、先住民であったということをお認めていることになると思っんです。…『アイヌ民族を考える』（上田伝明著 法律文化社）

## 新法とウポポイ（民族共生象徴空間）清算されぬ民族の歴史

…『旧土人保護法』が1997年に廃止され、アイヌを「民族」と認める法律が出来た。しかしそこに先住権は書きこまれなかった。今年5月に施行された「アイヌ

施策推進法」で初めてアイヌは先住民としての地位を得た。それはめでたいことだ。：と喜ぶ一方で、このニュースがどれも「民族共生象徴空間（ウポポイ）」に絡めて報じられることをどう考えればいいのか。：アイヌはちまちまと田や畑を作らず、狩猟採集と貿易で暮らした。大地はみなとの共有のもので、土地の所有権という概念はなかった。

そこにシサムⅡシャモが来て、：アイヌの土地を没収し、生業である漁業と狩猟を禁止し、入れ墨など固有の習慣を禁止し、日本語の使用を強制し、日本風の氏名を名乗るよう命じた。それを「保護」と呼んだ。：（作家：池澤夏樹Ⅱ帯広出身 2019・7・8 北海道新聞より）

### トークシヨウ

なつの親友・小畑雪次郎役の山田裕貴さんのトークシヨウが7月13日、都内の二子玉川ライズで開かれた。ファンら約1000人が集まるなど首都圏でも「なつぞら」人気は健在で、朝ドラを通して十勝への関心が高まっていることをうかがわせた。帯広市などで作るフードバレーとかち首都圏プロモーション実行委員会が実施した「十勝大百貨店」の関連イベント。NHKサービスマスターが主催した。

山田さんは雪次郎の役作りについて「ほっとするキャラクターを心掛けて」と説明。十勝での撮影は1日しか参加していないが、「北海道の空気や匂い、自然を目の当たりにし、伸び伸び育った男にしたいと思った」と話した。

今後の見どころについては、「これから先も雪次郎はうまくいかない」とユーモアを交えて紹介。「なつぞらを愛してもらえよう全身全霊で撮影に臨みたい。将来は俳優界を変える革命者、偉人になりたい」と語った。劇中、十勝農業高校の演劇部時代に披露した「FFJの歌」を歌い、会場を盛り上げた。

トークシヨウに一番乗りで来場した千葉県の木村かすみさん（43）は「十勝の自然風景や牧場経営の話が興味深い。ロケ地が公開されたら行ってみたい」、都内から参加した榊原まなみさん（44）は「明るく前向きな話が多く毎朝見ている。十勝の自然の素晴らしさが画面から伝わる」と話した。

札幌から駆け付けた山口未央さん（37）は帯広生まれ。「なつぞらを見て（十勝開拓の祖）依田勉三を改めて調べるなど物語の背景も深読みできる。雪次郎には（劇中で）お菓子を作ってほしい」と述べていた。

首都圏に住む十勝出身者の姿も。東京帯広会の森田邦雄会長（76）は獣医師の父と十勝の酪農家を回った経験を持つ。「懐かしい。山田天陽（吉沢亮さん）のような貧しい農家が大半だった」と振り返った。「朝ドラ効果で十勝の存在が知れ渡り、うれしい」と笑顔を見せた。14日は、「番長」を演じた板橋駿谷さんのトークシヨウが行われた。（2019・7・14 十勝毎日新聞より）

（2019年7月15日 北海道・新得 佐野 周二）

### ◇読者からのおたより◇

**骨折** 昨年の10月21日腰の骨、骨折により、その後の調子が今一つ上がらず、苦労しています。今年の1月7日にコルセット着用をしなくても良いことになり、一応全快したのですが、その後、4月7日の県議選に向け、約3カ月間、全市約260人を訪ね、杉井旬（ひとし）候補を依頼して歩いたため、4月～5月、約2カ月間は疲れと寒暖差で背筋が痛み苦勞しました。6月に入り、参院選まわりを始めました。ようやく100人に会い、依頼しました。ほぼ予定通りの行動です。

7月4日の公示日では「打越さくら」は当確なのですが。春の県議選では予定の2倍以上の行動となり、その後の苦労が重なったので、参院選は予定通りで終わる予定です。春の県議選では1万2000票弱でしたが当選させることができました。チョットいろいろ不満がありましたが出来だと思っています。この勢いが夏の参院選「打越さくら」の三条の個人演説会では小生の近くの福祉センターで7月12日は別紙の通り、450人（主催者発表500人）が結集して成功裡の内で終えました。翌々日の14日（日）には新潟駅（万代口）前で2000名の街頭演説・集会となり、50万票の攻防戦の最終局面に入りました。

ここ3年間の参院選、知事選、さらに昨年知事選、知事選の間には衆院選もあり、その総仕上げの選挙としては「もうひとつ元気がたらない。広がり不足しているのではないか」と心配されます。小生としては勝手に分析し、低投票率では50万票超えれば当選、50万票に届かなければ敗北と考え今次参院選新潟選挙区を闘ってきました。比例区は社民、沖縄の「仲村みお」候補で闘います。社民「吉田たかとも」はどうか。いずれにせよ「社民」は全体的にみると今一歩ではないか。以上のような状況、最後の5日間の追い込み、果たして結果はどうなるか。

（2019年7月16日早朝 相田邦夫）

兼子千栄子さんの短歌から 7月14日、新盆帰省、帯広のホテルに連泊。その間に詠んだ七首。

- \* 飛行機の 窓より眺む北の地は 果てなく続く 緑の 海原
- \* 畑（はた）の中 ついばむ二羽の 鶴を見し 雨後の緑に 映える 赤色
- \* 想い込め 花壇あざらか造り手の 眺めし我も 心うるほい
- \* 名を知らぬ 可憐な花が咲きほころ どりどりの色 美しきかな
- \* 海沿いに 走る車は心のせ スピードあげて 目的地まで
- \* 心まち のぞく青ぞら雲間にも 梅雨明け間近 指折り数え
- \* 義姉（あね）の母 齢（よわい）九十 寿ほぎは ショートケーキと 笑顔の中に

## ◇ 編集部より ◇

釣れた！釣れました！「イトウちゃん」が 天塩川に幻の魚「イトウ」が住むと聞いて20年余。地元の釣りキチは「こんなの釣れた」（メートル級）の写真をこれ見よがしに送ってくる。

音威子府に行くとき竿を出す。20年間、イトウは幻であった。7月30日、釣り人は5人。イトウちゃんつれた。幻でなくなった。大物は90センチ、ぼくは70センチ。20年目でやっと釣れた。

やっぱ粘りが大切。わが師匠・新潟の小林義昭氏によろやと「恩返し」です。女房は、「このところの天候不順と猛暑で、イトウちゃんの体力が弱り、引っ掛かったじゃない」と冷たい。でも、さっそく左記の短歌や、感動の感想・激励の声も届き、20年来の夢の実現、未だ興奮冷めやらず。

（滝野 忠）



\* 大物の 釣果 両手（もろて） 天塩川 気分サイコー 破顔一笑 （兼子千栄子）  
\* 「魚をもつ滝野さん、どや（得意）顔でしたね」（どら猫ライダー）